

宮崎市出身の瑛九（本名：杉田秀夫）は、生涯を通じて常に新しい表現を求め、写真や版画、油彩など様々な技法に取り組みました。またその作風も、初期から晩年に至るまで、印象派やシュルレアリスム（超現実主義）風、抽象的な作品など、多彩に変化しました。

20代でフォト・デッサン集『眠りの理由』を刊行し、一躍美術界で脚光を浴びた瑛九は、様々な技法や表現を模索した後に、その集大成ともいえる点描による絵画空間へとたどり着きました。

今回の展示では、各領域の代表的な作品とともに、瑛九が試みたシュルレアリスム的な表現の作品を特集して紹介します。没後60年近くを経て、今なお輝き続ける瑛九作品の魅力をお楽しみください。

■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
1	瑛九	1911～1960	フォト・デッサン集『眠りの理由』より	1936(昭和11)	23.8×19.8	フォト・デッサン
2	瑛九	1911～1960	フォト・デッサン集『眠りの理由』より	1936(昭和11)	27.0×21.7	フォト・デッサン
3	瑛九	1911～1960	ポートレート	不明	27.2×22.0	フォト・デッサン
4	瑛九	1911～1960	題不明	不明	26.8×22.6	フォト・デッサン
5	瑛九	1911～1960	風が吹きはじめる	1957(昭和32)	39.7×52.8	リトグラフ
6	瑛九	1911～1960	れい明	1957(昭和32)	52.9×42.0	リトグラフ
7	瑛九	1911～1960	誕生	1940(昭和15)	45.5×53.1	油彩
8	瑛九	1911～1960	花の散歩	1954(昭和29)	33.3×24.0	油彩
9	瑛九	1911～1960	ビルの窓	1957(昭和32)	91.2×72.6	油彩
10	瑛九	1911～1960	みづうみ	1957(昭和32)	91.3×116.3	油彩
11	瑛九	1911～1960	飛びちる花びら	1958(昭和33)	80.3×116.3	油彩
12	瑛九	1911～1960	まつり	1958(昭和33)	90.8×106.4	油彩
13	瑛九	1911～1960	つばさ	1959(昭和34)	259.0×181.8	油彩
14	瑛九	1911～1960	フォト・デッサン集『眠りの理由』より	1936(昭和11)	22.1×27.1	フォト・デッサン
15	瑛九	1911～1960	題不明	1937(昭和12)	23.7×16.7	フォト・コラージュ
16	瑛九	1911～1960	題不明	1937(昭和12)	30.3×20.7	フォト・コラージュ
17	瑛九	1911～1960	背中合せ	1952(昭和27)	14.5×13.0	エッチング
18	瑛九	1911～1960	海底	1953(昭和28)	21.0×13.5	エッチング
19	瑛九	1911～1960	森の会話	1953(昭和28)	36.1×27.2	エッチング
20	瑛九	1911～1960	白い角	1954(昭和29)	23.6×18.1	エッチング
21	瑛九	1911～1960	鳥の夢	1956(昭和31)	38.7×26.2	リトグラフ
22	瑛九	1911～1960	森の入口	1956(昭和31)	36.0×25.0	リトグラフ
23	瑛九	1911～1960	森の中	1957(昭和32)	40.1×25.4	リトグラフ

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
24	瑛九	1911～1960	旅人	1957(昭和32)	37.9×52.4	リトグラフ
25	瑛九	1911～1960	眼が廻る	1955(昭和30)	53.5×65.1	油彩
26	瑛九	1911～1960	鳥	1956(昭和31)	52.9×45.4	油彩